

宮前地域に相応しい、心に残る姿を持ち、すべての人を受け入れる包容力と通う喜びに満ちた学び舎「わくわくプラットフォーム」をつくる

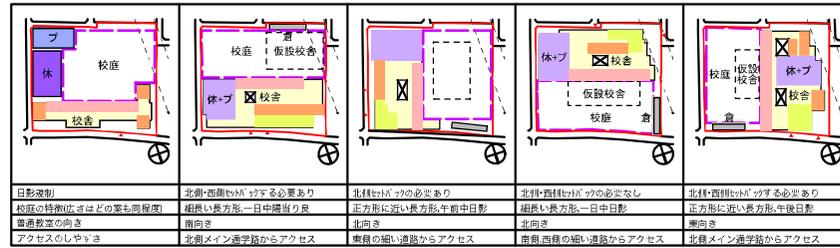
■プロジェクト成功に必要な施設像を実現するための4つの課題(様式5)の具体的解決策

西宮中学校とコミュニティふらっとが、本当にひとつの「学びのプラットフォーム」となるために必要な3つの原則

- 1.中学生が毎日誇らしく感じる正門と、地域の誰もが使いたくなる街並みへの「開かれた顔」の2つを同時に与える
→印象的で卒業後も誇りとなる中学校の「正門」と、外から地域施設の活動がわかり、寄りつきたくなる外観=「街のえんがわ」
- 2.毎日通い学ぶのが楽しみになる学校空間をつくり、そのプライバシーを確実に守る
→自ら学ぶ多様な学習形態が、教職員と生徒の両方で作り出せる包容力のある基本的機能性と、地域施設との明確な分離を両立
- 3.地域活動が全ての世代の人にとって楽しく行える場所を街路沿いに確保し、活動の広がりに合わせて学校施設に利用拡大できる構成
→「街のえんがわ」となる街路沿いの活動空間と屋根のある屋外「毎日通うのが楽しみになり、卒業後や将来に世界のどこに行ってもふと思出す」楽しく、かつ誇りとなる学校・生涯の学び舎 = 「わくわくプラットフォーム」をつくる10の提案



■近隣配慮、校庭を最大限確保を両立する配置を検討



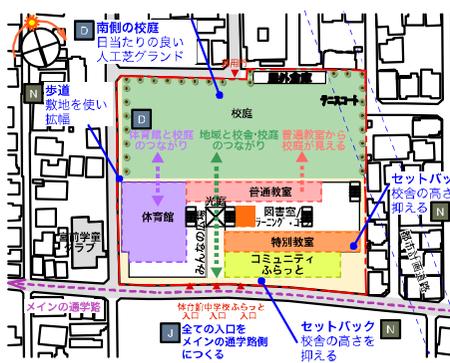
- 1.学校と地域施設の2つの顔をつくる
→学校の「正門」、地域施設の「えんがわ」を明確につくる
- 2.時間を経るごとに表情に深みが出る建築をつくる
→時間を経て美しくなり、永く愛される煉瓦建築のような姿
- 3.明確な骨格を持つ100年建築を目指す
→明快な平面構成、単純ながら美しい意匠を持つ建築をつくる
- 4.全ての個人や個性を尊重する多様な居場所を用意する
→えんがわ、溜まり場、座れる段差、寄りかかる壁、ニッチ等、固定目的のない「ひだ」状の居場所を建築と家具でつくる
- 5.正門から校庭までを貫く生徒と住民の「みんなの広場」をつくる
→みんなの広場が中心軸となり、教職員・生徒・住民が出会う
- 6.1階の街路に沿って住民の憩いの場所「みんなのラウンジ」、学校の知の拠点「図書・メディアスペース」、地域開放の中心「体育館」を配置する
→生徒の学習と、住民の活動がみんなの広場に沿って配置され、お互いの学び・活動が相互に刺激し合う関係をつくる
- 7.1階の図書・メディアセンターと2階~4階の図書館サテライトスペース「ラーニング・コモン」で学校の縦軸をつくる
→図書館、ラーニング・コモンが学年を越えた横断的な活動や学習を促す場所となる
- 8.普通教室や管理諸室を明確に区画できるようにして、図書・メディアセンター、ラーニング・コモン、すべての特別教室を状況に応じて地域開放できるようにする
→教職員・生徒と運営者・住民の互いの「学び舎」を実際の活動状態に合わせて協議して、領域を制御できる
- 9.すべての普通教室と特別支援教室を校庭が見え、日当たりの良い南側に、学年のまとまりをつくりながら配置する
→生徒の生活拠点を最も大切に扱い、学習環境の土台を固める
- 10.北側の日陰に配慮して、街並みに馴染むスケールの段状構成
→地域住民を迎え入れ、景観を美しく快適にするしかけつくり

■周辺の公共施設との関係性を強化
・周辺公共施設とつながり、西宮中の学区を横断する敷地北側の通学路をメインの通学路と位置づける



■メインの通学路に学校と地域施設の入口を設け、近隣住宅側の高さを抑えた校舎を配置する

- ・校舎を北側に寄せ、南向きの校庭を最大限確保
- ・学校、地域施設の入口を北側道路側に設ける
- ・学校敷地を使って歩道を拡幅



基本方針「ビジョン1」に対する提案

- | | | | |
|--|--|--|---|
| <p>A 個人、少人数、学級、学年単位での学習活動など、使用する人数の違いに応じて学習場所が選べるよう、様々な広さ、機能を備えた学習場所を用意。</p> <p>B 多様な個性と違いを持つ生徒すべてが居心地良く学び、生活できる個性的な場所を用意する。</p> <p>C 各階の教室と職員室に隣接する、建物の中心に図書館とラーニングコモン(サテライト含む)を設け、静かな環境だけでなく対話しつつ学習できる場所を各階に用意。</p> | <p>D 現状と同等以上の広さのグラウンドを確保。体育館との連携も容易にできるようにし、学校行事、並びに地域開放でも使いやすくする。</p> <p>E 職員室前にもベンチやテーブル・椅子を設えられるようにし、気軽に生徒と先生、生徒同士が気軽に話せるようなインフォーマルな場所を用意。</p> <p>F 生徒数が減少した場合には2~4階の体育館に近い2教室分を転用可能とする(地域開放玄関からアクセス)。</p> | <p>G 普通教室の近くに多目的教室(可動間仕切り等の設置あり)を設け、生徒数の増加や教育方法の変化にもフレキシブルに対応可。</p> <p>H 建物形状は、極力不整形な部分がないシンプルな形状とし、建設費だけでなく維持管理もしやすいものとする。</p> <p>I 教職員が日常的に使用する部屋をまとめて配置して、教育準備に最も機能的状態を直接相談して検討。また、ICTの発展と採用に合わせて家具・設備を検討する。</p> | <p>J PTA・学校支援本部の部屋を、地域開放口近くに配置し、教職員と同時にコミュニティふらっとも連携しやすい位置に設け、保護者・教職員・地域運営者の協力関係を促す。</p> |
|--|--|--|---|

■全ての普通教室と特別支援教室を南側に配置し、全ての特別教室が地域開放可能な平面計画

普通教室 すべて南側に学年のまとまりをつくり配置

屋外プール 体育館屋上に配置 周囲に日陰のスペースを確保 日除け庇の設置

ラニング・コモン 発表、調べ学習、休み時間の休憩場所

多目的室 生徒増への対応やラーニング・コモンと一体利用しやすい場所に配置

特別教室のまとまり 数学+理科など連携した学習ができる配置を検討

管理諸室のまとまり 職員室、校長室から校庭が一望できる

特別支援教室 校庭が見え、職員室に近い場所に配置

ラーニング・コモン 職員室前の先生とのコミュニケーションスペースにもなる

セキュリティライン 地域開放を安全に設定できる計画を検討

保健室 校庭・体育館に近接

体育館 東側に倉庫を直結 直接音を近隣に出さない

セットバック 北側の建物高さを段上に減らす

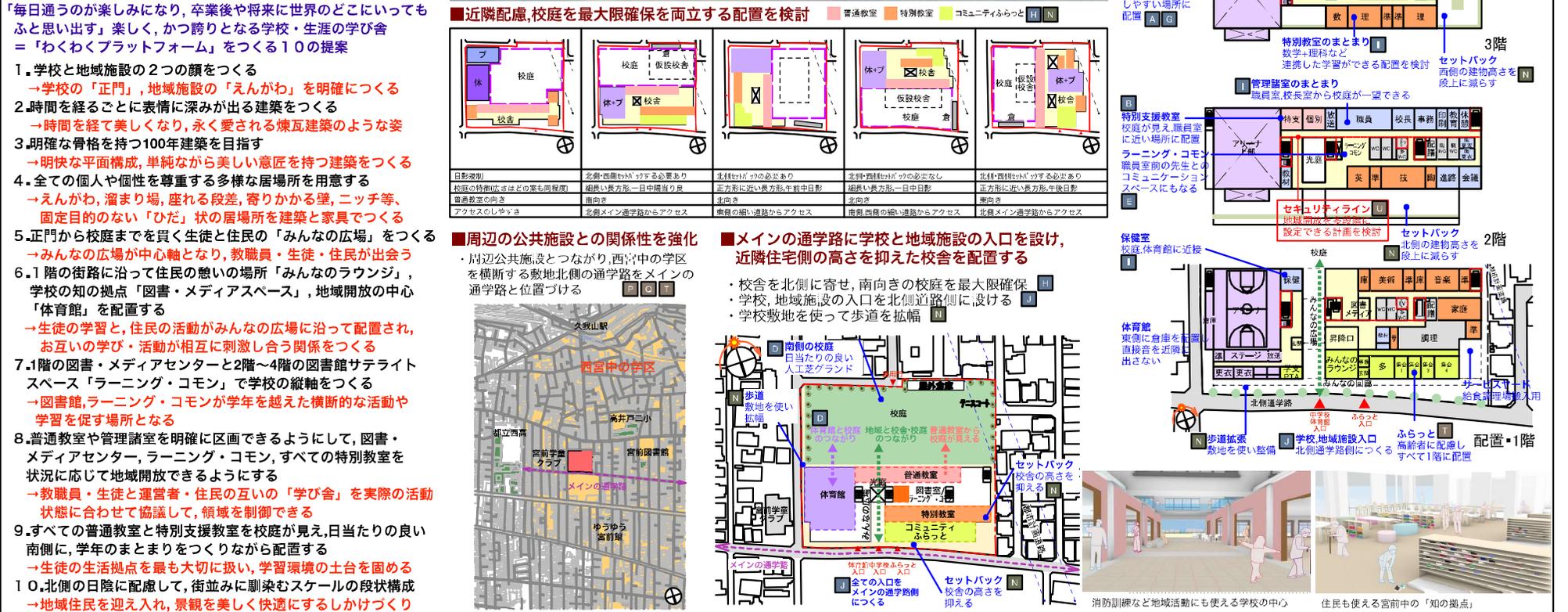
セットバック 西側の建物高さを段上に減らす

セットバック 北側の建物高さを段上に減らす

セットバック 高齢者に配慮し すべて1階に配置

消火訓練など地域活動にも使える学校の中心

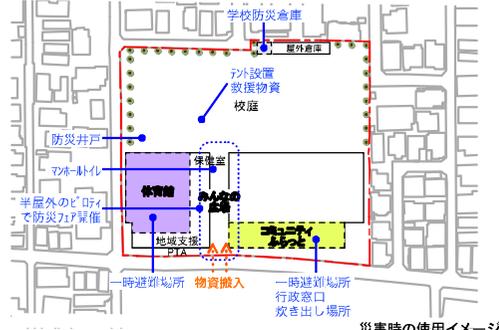
住民も使える宮前中の「知の拠点」



何気ない日常生活の中で生徒と地域住民の交流が生まれる学校、環境学習の教材となる学校をつくる

■災害時、地域住民/NPO団体/ボランティアが連携した救援活動がしやすい施設をつくる

- 日常生活の中心軸である「みんなの広場」が救援活動の中心軸となる
- みんなの広場を中心に、コミュニティふらっと/学校支援PTA室、保健室などが救援活動の拠点となる



■外断熱を基本とする安定した室内環境をつくる

建築的な工夫

- シンプルでコンパクトな形とし、外表面積をおさえ、換気・彩光に十分な開口
- 階段室や光庭を活用した自然換気システム
- 庇やルーバーで直射光を制御



最先端技術の導入

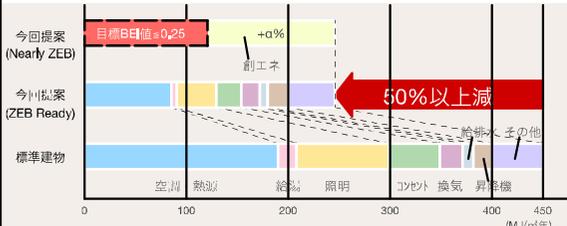
- ナイトバージ(夜間換気窓を開け室内の熱を排気制御する)により、冷房エネルギー負荷を低減
- BEMS(センサーによるエネルギー消費量把握)
- CO2センサーにより換気風量を自動制御
- 体育館などの大空間は直換空調システムにより、居住域のみ空調して必要熱量を抑える



Nearly ZEBをめざす

- ZEB Ready(年間消費エネルギー-50%)を達成し(step1)、創エネルギーの活用を積極的に行いNearly ZEB(年間消費エネルギー-75%)を達成する。(step2)
- 太陽光発電200kW設置を目標にする。

木造庁舎Nearly ZEB 当社実績



外断熱工法を積極的に用いて、快適性と省エネルギーを両立した校舎をつくる

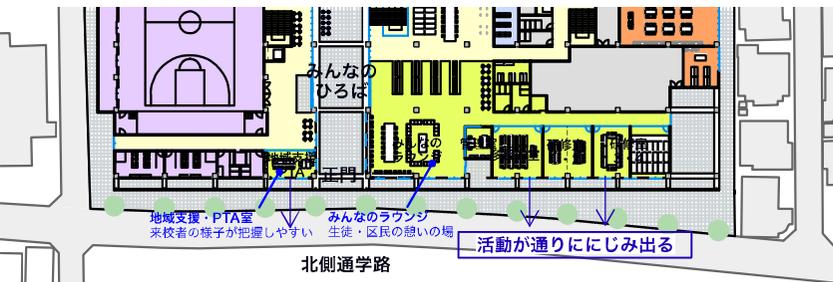
基本方針「ビジョン2」に対する提案

- K** 安全性・耐震性を重視した構造設計とし、災害時でも拠点として安心して建物を使用できるようにする。
- L** ピロティ等の半屋外空間を利用して災害救援所の運営や、地域や生徒が参加する防災訓練等を円滑に行うことができる。
- M** 学校全体を災害時の一時避難所として使用できるよう、防災井戸、マンホールトイレ、防災倉庫等を敷地内に設け、地域防災拠点としての機能を確保。

■近隣住宅に向かってスケールを抑える校舎イメージ



■北側通学路に向かって開かれる「コミュニティふらっと」



学校の中心となる「みんなの広場」

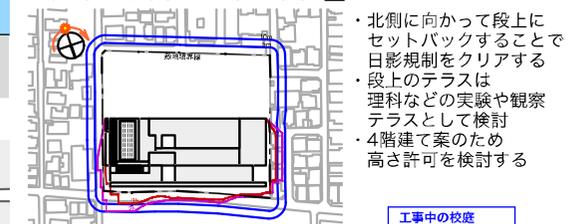


発表や調べ学習スペースとなる3階「ラーニング・コモン」

■建築・設備の相乗効果でLCCを削減する

- 躯体計画供用期間は100年(長期)
- コンクリート耐久設計基準強度30N/mm²
- 長寿命、メンテナンスの容易な素材の選定
- 特殊な専用機器は採用せず、標準品、汎用機器で対応し、将来の故障時や更新時のコストを低減
- 長期間の使用が可能で、かつメンテナンスが容易な仕様を選択し、修繕・更新サイクルを長く設定した改修計画を設計時点で準備
- 電気・給排水・空調設備機器の耐用年数の同期化、設備配置ルートの集約化により不要な道連れ工事をなくし、修繕改修を効率化
- 十分な広さのメンテナンススペースを確保
- 上記の計画を活かすBIMを併用したFMを設計時点で提案

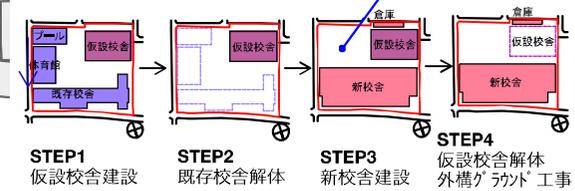
■等時間日影図による高さ検証



- 北側に向かって段上にセットバックすることで日影規制をクリアする
- 段上のテラスは理科などの実験や観察テラスとして検討
- 4階建て案のため高さ許可を検討する

■工事中の校庭を最大限確保する

- コンパクトな仮設校舎計画の実施
- 工事中の騒音に配慮し、二重サッシを検討



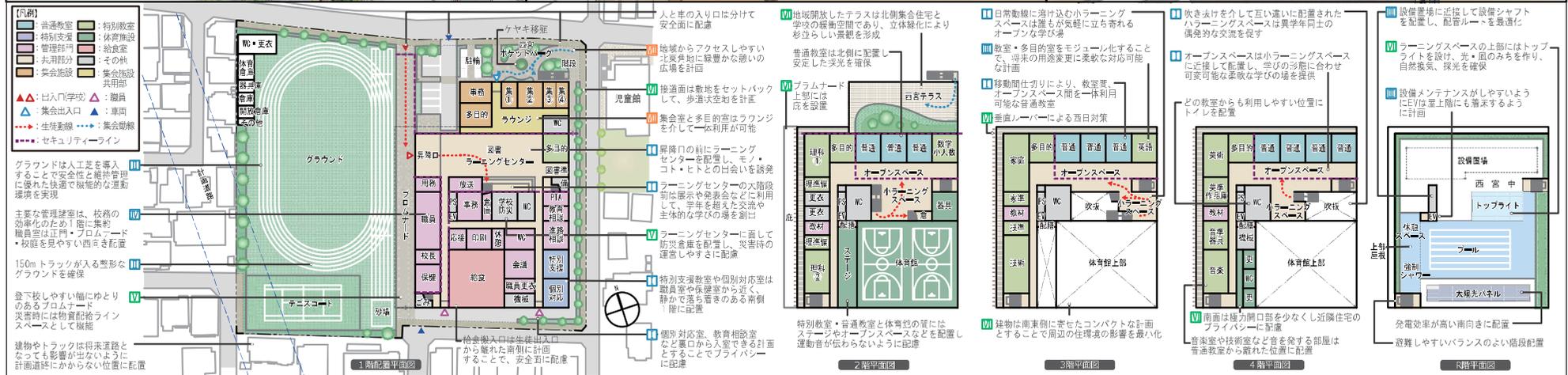
STEP1 仮設校舎建設 STEP2 既存校舎解体 STEP3 新校舎建設 STEP4 仮設校舎解体 外構グラウンド工事

全ての普通教室と特別支援教室が校庭側に配置させる校舎



基本方針「ビジョン3」に対する提案

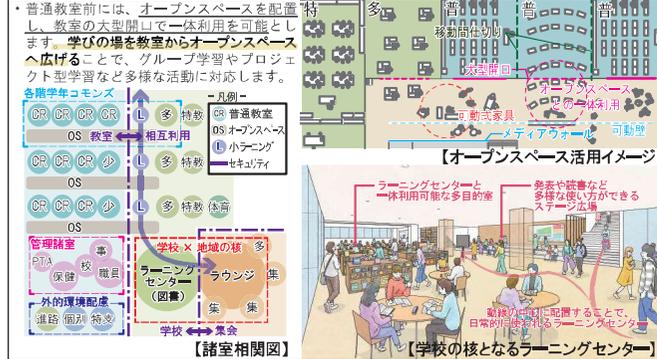
- P** 地域に開かれたラウンジを昇降口近くに置いて、中学校と共有でき、分離もできるようにして、共同活動と交流を可能にする。
- Q** 宮前学童クラブ、ゆうゆう大宮前館、宮前図書館と繋がる北側道路に面してコミュニティふらっとを設け、様々な利用者を歓迎する。学校昇降口にも隣接させ、学校諸室とも随時、連携・分離できる。
- R** 学校職員、教育支援者、PTA、交流施設職員が連携し、易い共用空間を設け、一体となる対話機会を生み出す。
- S** コミュニティふらっとのラウンジに自学自習場所を用意し、小中高の生徒・地域の大人も利用できる。
- T** コミュニティふらっとは文字通りフラットなユニバーサルデザインを徹底、内外とも全ての人に利用し易くする。
- U** コミュニティふらっとと中学校は入口は別々に設け、建物内では1箇所でのみつなぐ。学校内では主に直通階段室でセキュリティラインを設け、ふらっとや地域開放の利用者が普通教室並びに職員室等の主要管理諸室にもアクセスできないようにする。



【ビジョン1】生徒の主体性を引き出し校舎全体を学びの場に変える柔軟な学習空間

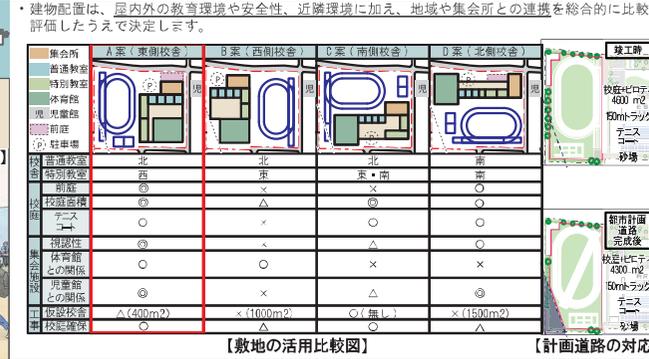
目標Ⅰ「Education for All / by All」を形にする学校設計

杉並区教育ビジョンで掲げている「Education for All / by All」を設計に反映します。可変のある教室とオープンスペースを一体利用し、動線上にラーニングセンターを設け、集会施設とも連携します。加えて、相談・ケア機能を近接配置することで、多様性を尊重し、自分らしく個別最適・協働的な学びができる環境を実現します。



目標Ⅱ 教職員・生徒の対話と偶発的交流が育む学びの拠点

西宮中学校の活発な学業・部活動・行事を支える屋内外環境を整備します。生徒と教員の間を「見える・交わる場」として構築し、学習・相談・交流が偶発的に生まれる居場所を創出します。こうした仕組みにより、自主自律と文武両道の校風のもと教職員と生徒が将来にわたるコミュニケーションを育む学校づくりを目指します。



目標Ⅲ 変化に寄り添い、地域と共に歩む学び舎

教育政策の変化や生徒数の増減を見据え、使い続けやすい校舎を計画します。教室・多目的室をモジュール化し、地域開放や将来の用途変更にも柔軟に対応可能な計画とし、学校が地域資源として機能する環境を整えます。更新負担を抑えLCCの最適化を図り、持続可能で地域と共に育つ学校を目指します。



西宮中コミュニティスクール 西宮中 × コミュニティふらっと = 新たな地域の交流拠点

西宮中学校と複合化するコミュニティふらっと宮前は親子連れから小中学生、高校生、現役世代から高齢者まで、幅広い世代の区民/地域の方が利用する施設です。この交流施設と新しい西宮中学校が複合化し、新たな地域の交流拠点となり、各々を単独で整備する以上の多くの相乗効果が生れます。これからの少子高齢化、地域共助の社会の中で、学校を始めとしたさまざまな公共施設が複合化していきます。地域社会で必要とされる新たな複合施設を杉並区関係者の方と地域、学校のみならずと一体となって取り組んでいきたいと思ひます。

＜ア.提案内容の全体像＞

西宮中の特徴を活かした学校づくり

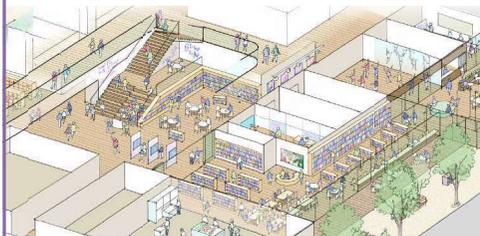
閑静な久我山の住宅地に建つ西宮中は活発な部活動や西宮祭を中心とした学校行事を特徴とし、コンパクトにまとまった校舎と大きく整形なグラウンドを整備します。



コンパクトな一体型校舎
大きく整形なグラウンド

学校の中心となるラーニングセンター

学校図書館をICT教育の『ラーニングセンター』として学校の中心に整備します。アクティブラーニングの拠点として昇降口正面に吹抜のふれあいホールと一体的に整備します。



ラーニングセンターを中心とした
主体的で多様な学びの場

安心安全の防災拠点と環境配慮型エコスクール

いのちを守る安心安全な新校舎は地域の防災拠点として自然エネルギーを上手に活用し、複合化によるメリットを最大限に発揮する高性能でレジリエンスな環境配慮型エコスクール。



地域の防災拠点
環境配慮型エコスクール

地域の拠点としてつくる学びのプラットフォーム

西宮中とコミュニティふらっとは複合施設として、相互利用の推進と災害救援所としての連携、学校開放における連携など複合化によるさまざまなメリットを最大限発揮します。



学びのプラットフォーム

＜イ.受託業務に対する考え方(取組姿勢)＞

■教育施設エキスパートによる「西宮中プロジェクトチーム」

- ・小中学校を中心とした学校、教育施設の実績を多数持つ設計者でチームを構成します。
- ・全社サポートチームがバックアップします。
- ・照査技術者による品質チェック、建築コスト管理士によるコストチェック、WSファシリテーターによるWS開催など、専門チームによるサポートを行います。

杉並区 西宮中 コミュふら 改築懇談会
学校整備課 地域課 管理課 教職員 MS:生徒 PTA 地域
(機密な打ち合せ) (関係者へのヒアリング) 丁寧な説明 意見聴取

西宮中学校プロジェクトチーム

総括責任者 ★ 全国の小中学校設計経験
小中学校8件の経験 杉並区在住

意匠担当 主任技術者 意匠 23区内小中学校の経験(3件) 意匠
意匠担当 インテリア担当 コミュふら担当

構造担当 主任技術者 構造担当 BIM担当 (意匠)

機械設備担当 主任技術者 機械設備担当 ZEB担当 (設備)

電気設備担当 主任技術者 電気設備担当 MSファシリテーター

積算担当 主任技術者 積算担当 ワークショップ支援

ZEBプランナー
ZEB有資格企業

全社サポートチーム

多角的視点でチェック
教育施設デザイン会議
構造会議 環境会議
監理部施工確認
コスト委員会
照査技術者
品質のチェック
建築コスト管理士
コストチェック

設計チームの取組体制

■「対話の設計」を重視した打ち合わせ手法

- ・みなさまとの『対話の設計』を重視し、杉並区や学校に丁寧な聞き取りを重ねます。打ち合わせは複合案を作成し、比較検討型の提案を行い、円滑な意思決定を図ります。
- ・設計から監理に至る膨大な検討項目を『課題管理シート』に集約一元管理し、みなさまの要望を確実に設計に反映します。

「対話」の設計

No.	検討内容	提案期限	進捗	経緯・方針一経緯を記録	✓
12	普通教室の収容	1/12/21	○	ロッカーの向き・必要数	
13	廊下の仕様	1/12/21	○	アップリット接ぎ手の仕様	
14	給湯の必要容量	1/12/21	○	電子給湯器採用	
	必要容量	1/12/21	○	家庭用型洗濯機・乾燥機	

課題管理シート記入例

＜イ.課題への取組姿勢、課題解決に向けた提案＞

■工事費の先読みが困難な中でのコストマネジメント

- ・コストは基本設計段階に約80%が決まります。設計初期段階からコスト削減を重点的に提案します。

■中学校 × コミュニティふらっとの複合施設

- ・本事業の最も大切な課題は杉並区初の学校(西宮中)とコミュニティふらっとの複合化です。
- ・学びのプラットフォームを成功に導くには教育委員会や主管課の役割を超えた、プロジェクトに対しフラットに向き合う、ひとつのチームとなる取組体制の構築を提案します。
- ・設計定例会議には私たち設計者と共に、両施設のみならずにも毎回ご参加いただき、相互の施設内容をみなさまで共有・理解していただきます。
- ・地域の施設として地域・利用者の声をしっかりと反映していきます。複合施設としてのワークショップを開催し、複合を前提とした意見聴取をおこないます。

■全7回の改築懇談会を新たな複合施設のワークショップの場とします

- ・基本設計期間中、全7回の改築懇談会が予定されています。そのうち3回をワークショップ(WS)とし、西宮中生徒やゆゆう大宮前館の利用者などを加え行います。
- ・某学校WSでは配置計画の比較検討からWSを行い、BIMや模型を活用して説明を行いました。WS最終回はBIMを活用したVRによる確認会を行いました。
- ・今回も同様のWSを改築懇談会委員への説明と共に複合施設WSとして開催、意見聴取をしていきます。

改築懇談会スケジュール

改築懇談会	改築懇談会	改築懇談会	改築懇談会	改築懇談会	改築懇談会	改築懇談会
6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回
プロ案説明	提案配案案1	提案配案案2	提案配案案3	基本設計(案)	基本設計まとめ(最終案)	改築懇談会

ワークショップ1回、2回、3回

模型による説明、複合施設WS、改築懇談会スケジュール

＜イ.工事業務の工程と手順の効率化、工期＞

■学校行事や生徒活動を考慮した工程計画

- ・工事業務の工程計画においては、生徒・教職員の安全を最優先とします。
- ・学校行事や長期休み、定期考査等のスケジュールを把握します。特に騒音・振動を伴う影響の大きな工事は、休校日に行う計画とします。

STEP1 仮設校舎建設

STEP2 既存校舎解体

STEP3 新校舎建設

STEP4 屋外倉庫建設・外構工事・仮設校舎解体

工事ステップ

提案

工事工期

新校舎

ビル管理法

＜イ.LCC、省エネルギー等の考え方＞

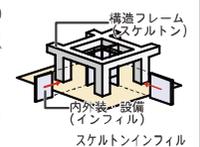
■費用対効果を踏まえた比較検討で最適解へ

- ・あらゆる可能性、費用対効果と比較検討することで、「建設費+運用・維持保全費=ライフサイクルコスト(LCC)」が最小となる最適なコストバランスを追求します。



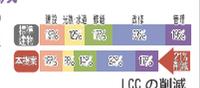
■長寿命な100年建築の校舎

- ・学校校舎は長寿命化を行い、100年建築の校舎とします。高強度コンクリートによる骨格のロングライフスクールとします。
- ・スケルトンインフィルの仕様とし、設備も含め将来の改修が容易な計画とします。



■ライフサイクルコストの削減

- ・自然エネルギー(風光・通風など)の積極的活用や省エネ維持管理費の削減などによりライフサイクルコストを21%削減します。



■学校の維持管理費用の具体的な削減提案

- ・校舎部分は屋外倉庫などを除き、1棟で8,000㎡未満とし、ビル管理法の対象外とします。対象校舎と比較すると年間約500万円の差額が発生します。



■ZEB Readyの確保

- ・中学校、コミュニティふらっと共に、省エネ対策によりZEB Readyの環境性能とします。



地域に開かれた主体的な学びを実現するコンパクトな校舎をつくる



校舎を西側に集約して既存樹木を活かした緑に囲まれた学校

自主的・主体的な学びを育む 学びのフォーラムとして校舎を構成する

2階中央にラーニング commons

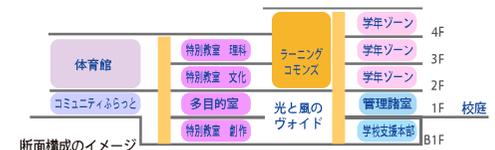
- 学校図書館を主体とする「ラーニング commons」を校舎2階の中央に据えます。
- 3つの学年ゾーンと特別教室をラーニング commons を囲むように配置し、生徒たちの自主的・主体的な学びの中心空間とします。



学びのフォーラムのイメージ

地下1階・地上4階で構成し2~4階に学年ゾーンを形成

- 校舎は地下1階・地上4階で構成し、2~4階の各階東側に学年毎の普通教室をまとめて、学年ゾーンを形成します。



ラーニング commons を囲む回遊性のある校舎

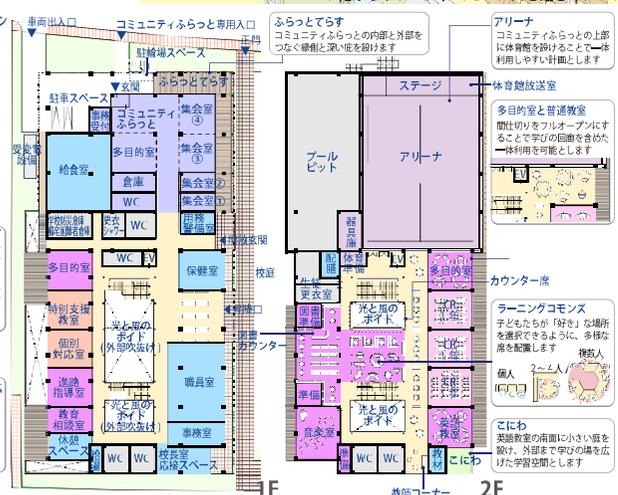
- 東側の普通教室、西側の特別教室、北側の体育施設がラーニング commons を囲む、回遊性のある校舎をつくります。その随所に学習スペースを設け、多様な主体的な学びの場を提供します。



回遊性のある学習空間のイメージ



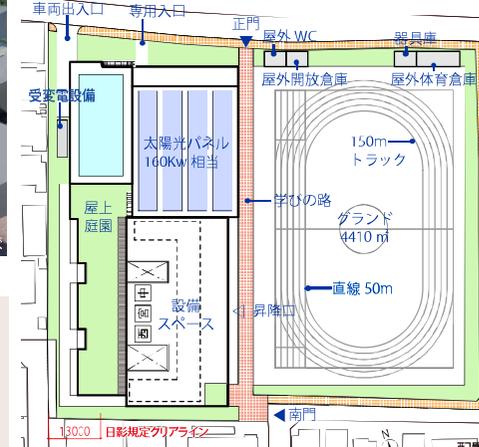
B1F



1F

校舎を整形にまとめて、安全で快適な校内環境をつくる

ピジョン：地域に寄り添い、環境に配慮した安心・安全で調和のとれた拠点づくり



生徒たちの安全に配慮した学校づくり

校舎を敷地西側に配置

- 新設する建物は、校舎、体育館、プール、コミュニティふらっとの施設を含めて、シンプルで整形に建てます。
- 工事中も使用する既存校舎と体育館・プールを避けて、校舎を敷地西側に配置します。

南北の門をつなぐ「学びの路」

- 校内の入口は、既存と同様に北側に正門、南側に南門を配置します。
- 南北の校門を繋ぎ、校舎と運動場の境界となる校内通路を設けます。

2つの施設の共存に配慮した正門と専用入口

- 学校の安全に配慮し、コミュニティふらっとの専用入口を北側に設けます。

車両の搬入口を北側に配置

- 給食搬入等の車両搬入口を主要な道路となる北側道路側に設けます。

地域環境向上に寄与した学校づくり

整形なグラウンドの確保

- 現状の運動場以上の広さの運動場面積を確保します。
- 運動場は整形に確保し、部活動や地域開放でも使いやすいものとします。

周辺環境に配慮し階高を抑える

- 住宅街にある学校として、周辺に配慮して、階高を3.6mに抑え建物全体の高さを抑えます。
- 住宅地に近い校舎西側は3階とし隣地から離れた位置とし、景観に配慮します。

緑豊かな校内環境をつくる

- 敷地外周には中高木を植栽し、緑豊かな校内環境とするとともに、潤いのある景観を形成します。
- また植栽を近隣住居との緩衝帯として整備します。

安全な地域防災拠点としての学校をつくる

避難所と学校運営の共存可能な区画設定

- 通常時、地域開放エリアとなる1階のコミュニティふらっとと2階体育館が避難時においても避難場所として利用できるような区画を設定します。
- 長期間の避難生活となっても、学校が運営できるよう、生徒動線と避難者動線が交差しない計画とします。

地球環境にやさしい学校をつくる

2つの視点で地球環境にやさしい学校づくりを実施

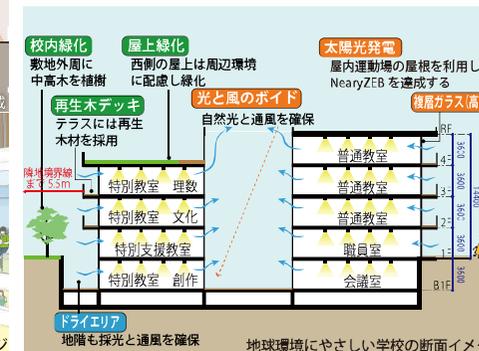
- 「エネルギー消費の低減」と「建物の長寿命化」の2つの視点から地球環境に配慮した学校づくりの実現を図ります。

1. エネルギー消費の低減

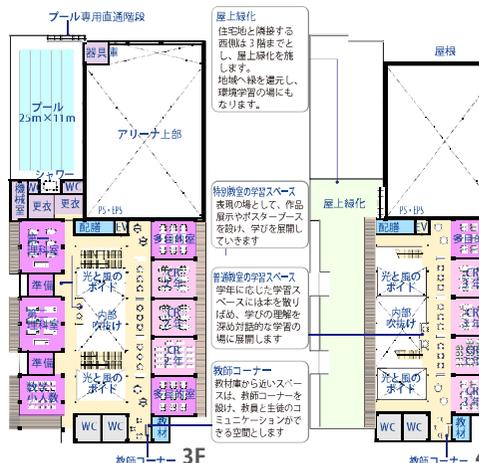
- 学校施設は、冷暖房負荷の大きい時期に夏休みと冬休みがあり、施設の大部分が使用されません。
- この施設適用上の特性を踏まえて、断熱強化や自然採光・通風などのパッシブ手法（建築的手法）に主眼をおいて省エネ対策を講じます。

2. 建物の長寿命化

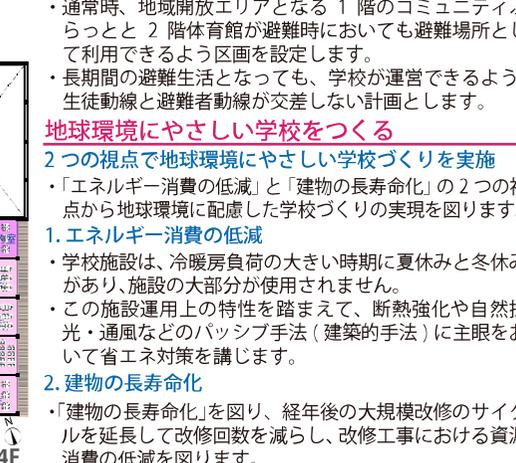
- 「建物の長寿命化」を図り、経年後の大規模改修のサイクルを延長して改修回数を減らし、改修工事における資源消費の低減を図ります。



地球環境にやさしい学校の断面イメージ



2F



3F



4F

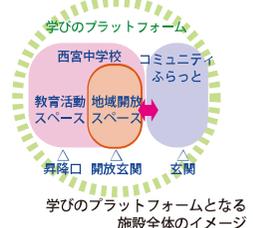
ビジョン3：地域のコミュニティの中心として、世を超えた多様な区民が出会い、学びや交流が広がる、学校と集会施設との複合的施設

地域と協働できる開かれた学校をつくる

活動に応じて利用できる地域開放スペース

学びのプラットフォームにスムーズなつながりをつくる

- 学校とコミュニティふらっとの施設全体を「学びのプラットフォーム」とし、多世代が学び、交流する学校づくりの充実を図ります。
- 各施設の出入口は別に設け、コミュニティふらっと利用者と先生方や生徒たちとの動線の交錯を避けた動線とします。
- 学校の地域開放スペースとコミュニティふらっとが相互連携しやすい施設構成とします。



段階的に開放できるセキュリティ区画の形成

- 地域開放の利用する時間や頻度を考慮して段階的に開放できるようにセキュリティ区画を設定します。

- 平日昼間
- 教育活動スペースとコミュニティふらっとがそれぞれ単独で運営できるように区画を設定します。

平日夜間

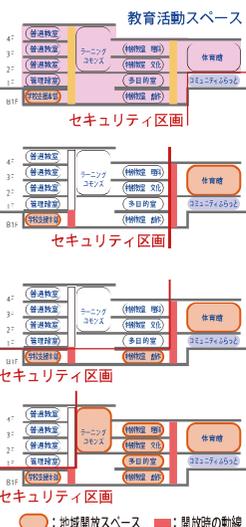
- 大人が運動する場として体育館が利用できるようコミュニティふらっとと一体で区画を設定します。

休日昼間

- ものづくりや料理等、地域住民と学校が連携して利用できるよう、創作エリアを地域開放として区画を設定します。

開放エリアの拡張

- 活動に応じて特別教室は地域利用することを想定し、普通教室・管理諸室以外のエリアを開放できる区画も設定します。



コミュニティふらっとの学校利用を可能にする

- 地域開放として利用頻度が高い体育館はコミュニティふらっとの上階に設け、活動に応じて開放する特別教室も近くに配置し、相互連携・同時利用を可能にします。



北側道路に面してコミュニティふらっとを配置して活動をまちに表出

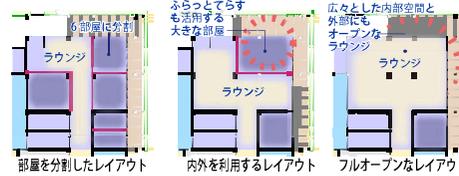
コミュニティふらっとの平面計画

- 北側道路に面して、地域住民の多様な憩いの場となるランジを配置し、コミュニティふらっとの活動がまちに対して賑わいをもたらすオープンな設えとします。
- 半屋外となる縁側と庇のある空間を設けることで、内部だけでなく、外部へつながる開放的な活動ができる場とします。



多様な空間を演出するスライディングウォール

- ランジと多目的室、集会室はスライディングウォールを用いて、多様な空間を演出します。
- 必要に応じて複数の部屋に分割したり、一体化させたりと、柔軟な運用を可能とし、既存ゆうゆう大宮前館での活動を継承しながら、さらなる多世代の交流の場として展開します。



地域交流活動の場を広げる地域開放エリア

コミュニティふらっとと連携しやすい体育館

- コミュニティふらっとの上階に体育館を配置することで、相互連携を図りやすくし、集団活動やスポーツによる地域活性化を促進させます。



学びの場として生徒と地域住民が交流できる創作エリア

- ものづくりや料理等創作活動を行う技術室・美術室・家庭科をまとめた創作エリアは、地下1階、学校支援本部の拠点となるPTA室と近い位置します。
- コミュニティふらっとからもアクセスしやすいため、コミュニティふらっとでの活動の幅を広げます。
- 中央の外部空間は、地域開放エリアとして利用することができ、広く開放的な空間とし多世代が創作活動を通して交流できる賑わいの場とします。



技術者チームの特徴・ワークショップの実績や提案・特に重視する設計上の配慮事項

豊富な実績を持つ設計チームが地域と共に学校をつくる

学校や公共施設の実績を豊富に持つメンバー

- 豊富な学校建築の設計実績を持つ総括責任者の指揮の下、学校建築に関して複数の設計実績をもち、総括責任者と姿勢を共有する各主任技術者が業務を推進します。



工事業務の工程、手順の効率性と工期

仮設校舎期間を最短化し、生徒たちの安全を確保する合理的な工事手順

特別教室棟のみ仮設校舎として整備

- 仮設校舎を必要最低限とし、既存校舎を最大限活用する計画とすることで、仮設校舎の建設、解体工事の期間を短縮でき、仮設校舎のリース費用も削減できます。

施設	令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
仮設校舎	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
新校舎																		
体育館棟																		
既存特別教室棟																		
既存校舎																		
既存体育館・プール																		
校舎外構																		

応募者と総括責任者の工費削減に対する実績・工費削減のための工夫

実績を基にした工事費削減の工夫

- 都内小学校をはじめ建設物価高騰時においてコストを最適化した実績をもとに、下記の方策で工事費削減を図ります。

シンプルな校舎をコンパクトに配置

- シンプルな校舎をコンパクトに配置することで基礎工事、躯体工事及び仕上工事における費用を低減します。

ボイドスラブを用いて躯体量と型枠、天井仕上を削減

- ボイドスラブを用いることで建物高さを低くし、躯体量を削減します。また、梁型が出ない形で、梁の型枠、天井仕上を省略することで、さらにコストを抑えます。

体育館・プールを上階に配置する

- フットプリントの大きい体育館とプールを上階に配置することで、基礎工事、土工の費用を削減します。

モジュール化により合理的に組み立てる

- 各部をモジュール化することで基本寸法を定め、工事が効率化され工期短縮に寄ります。

仕上材の簡素化

- 仕上材の簡素化することで仕上工事費を削減します。

これからの西宮中を地域の皆さんと考える

事業目的の把握と的確な現地調査とヒアリング

- 生徒の持ち物や授業形態等を把握し、新しい学校の設計に役立てます。
- カリキュラムや運営方法を精査して地域開放の方法や具体的な管理方法の検討をし、運営のニーズを十分に満たした計画にします。



地域の方々のご意見を傾聴

- 市民の方々の意見を聴く機会を設け、合意形成を行います。
- ワークショップ参加をきっかけに、新しい西宮中や地元に対する愛着を醸成する機会とします。

生徒たちの登下校時の安全確保を徹底する

- 校舎を西側に配置し、工事段階を分けることで、安全で学習環境を阻害しない居ながら改築を実現します。
- 工事期間中の工事車両出入口と生徒の出入口を分けます。

LCC (ライフサイクルコスト) 等について地球環境にやさしい学校をつくる

2つの視点で地球環境にやさしい学校づくりを実施

- 「エネルギー消費の低減」と「建物の長寿命化」の2つの視点から地球環境に配慮した学校づくりの実現を図ります。

1. エネルギー消費の低減

- 冷暖房負荷の大きい時期に長期休暇があり、施設の大部分が使用されない学校施設の特性を踏まえて、パッシブ手法(建築的手法)に主眼を置き省エネ対策を講じます。

2. 建物の長寿命化

- 「建物の長寿命化」を図り、経年後の大規模改修のサイクルを延長して改修費を低減します。

50年間の維持管理コストを低減

- 年間のエネルギーコストと修繕コストを合算した維持管理コストを50年間で35%低減します。

